

SUPPORT NEWS

あなたの想いを、私の想いをかたちにしたい・・・
地域福祉の観点からだれもが自分らしく生きていける社会を目指します。

NPO法人 地域福祉サポートちた

も く じ

□まちづくりを応援する中間支援力とは…… 1P	□星槎中学校レストラン…………… 2P
□介護職員初任者研修…………… 2P	□東海市センター登録団体现場見学 …… 3P
□日本福祉大学SL意見交換会 …… 2P	□市民活動センター10周年記念事業…… 3P
□名古屋短大インターンシップ受入報告… 2P	□リレーインタビュー…………… 3P
□金城大学ゼミ合宿…………… 2P	□インフォメーション…………… 4P

まちづくりを応援する中間支援力とは

愛知県では、NPOと行政の協働促進に向けて、平成16年5月に「あいち協働ルールブック2004」を発行、これに基づくNPOと行政の継続的な協議・検討を行うため、平成17年3月にNPOと行政の協働に関する実務者会議(以下、「会議」)が設置されました。具体的事例の検証を通じて、協働に関わる課題、問題点を把握・分析し、より質の高い協働とするための改善策を研究・提案すること等、5つの役割をもって開催されています。

第8期第1回の会議が8月18日、あいちNPO交流プラザで開催されました。第7期(平成27,28年度)「協働の裾野を広げる」をテーマに協議した結果、市民活動センター(以下、「センター」)におけるコーディネーター機能及び地域で存在・活躍するためのポイントがまとめられ、これらを踏まえ今期は「中間支援の人材育成等の組織強化」を検討していくことになりました。

従来の行政とNPOとの協働だけでなく、地縁組織の相談や生活支援体制整備事業に関する内容や会議運営支援が要請される等、行政の庁内連携と同時にセンターにも多岐にわたるスキルが求められています。また、コーディネーター機能については、受託するNPOの属人的なネットワークに委ねられているため事業継承や新たな人材確保について協議する必要があると思います。

私たち知多地域は日常生活の困りごとを「お互いさま」で助け合い、それらを有償化することで持続可能な仕組みをつくと同時に、各NPOの情報交換を目的に足りないサービスを生み出す機能を担ってきました。その中で中間支援力とは「現場のニーズに応じた活動を展開、その積み重ねから見えてきた役割の共有・確認を経て、現場の信頼を得る後方支援」と位置づけています。当時の

代表理事、松下典子さんは「中間支援組織のメンバー自身がNPO設立のプロセスあるいはNPO運営の経験があることも鍵である。(中略)中間支援組織であっても活動の核は市民であり、なぜその中間支援組織が立ち上がったのか、その中間支援機能が何のために必要なのかということが重要である。生活の当事者としての市民の視点はずしてはならない。市民の思いを受けて、行政につなぎ、社会にメッセージを発信することで、新しい社会づくりの役割を担うのが中間支援組織である」と、まとめられています。(中間支援・協働推進ココロエ帳, 2009年)

このココロエ帳は、公共施設の市民運営を担う人材育成事業「中間支援力アップスクール」を本法人が平成20年度あいちモリコロ基金事業として実施しました。このプログラムの1つに「NPO支援センターネットワーク研修会」があり、県内センター関係者を協働推進実践者に迎え、各地域で支援の実態を語っていただきました。

これが現在の県内NPO支援センター意見交換会の始まりです。その後は知多市、一宮市、半田市、豊川市、刈谷市、名古屋市、大口町そして再び名古屋市と、備忘までに開催地を記しました。

知多市市民活動センターは、市民が育ちあう拠点として10周年を迎えます(詳細は3頁)。これを機に、草の根活動を応援する「市民活動基金(仮称)」を設立します。センター事業では、人的支援のためのプロボノエントリー募集を9月1日より開始、また団体運営に必要な事務支援講座を11月24日25日で開催、両日同じ内容となっています。市内外問わずNPO事務担当者やNPOに関心のある方であればどなたでも参加可能ですので、同封のチラシをご参照ください。(市野 恵)

■介護職員初任者研修

名古屋短期大学で開催の介護職員初任者研修が修了した。受講した8人の中には、介護現場に内定した学生もいる。



臥床状態でのシーツ交換

本講座の特徴は、高齢や障害の福祉施設で支援する講師陣による現場の実情を事例に挙げ、介護保険法や障害者総合支援法等の制度、人の尊厳や自立支援、コミュニケーションの取り方等、就職に活かせる内容になっている。これまで受講者より「子育てをする上でも大切なことを学ぶことができた」「ベッドから車いすへの移乗や衣類の着脱を習っていたら苦労しなかった」等、家族介護に必要なスキルも身につくと好評を得ている。

本法人の初任者研修修了者に対して、制度改正の理解や新しい介護技術へのサポートを行う。受講希望者は事前連絡が必要。（竹内）

□サポートした 介護職員初任者研修 通学課程

〈日程〉9月25日～12月8日(月水金)
 〈会場〉雁宿ホール、知多市市民活動センター
 〈受講料〉70,000円(実習費・テキスト代金)
 半田市在住・在勤の方は55,000円
 〈問合せ〉担当:竹内・関 (4頁に連絡先掲載)

■日福大サービ斯拉ーニング意見交換会



学生の様子について語る参加者

8月3日、教員5人、受入団体17団体(18人)が参加し、日本福祉大学協働型サービ斯拉ーニング(以下SL)意見交換会を開催した。

まず村上徹也先生よりSLの目的は、学生の市民性を促すことにあり、社会課題を我が事と捉え活動する市民活動団体やNPOとの協働によって地域と共に学ぶ取組であると述べられた。

受入団体から「基本的マナーを守ることは必須だが、学生らしい発想や意見を楽しみにしている」「チャレンジする姿勢を応援し、成長を促していきたい」との一方で、全体報告会の在り方について「発表の完成度を高めるよりも考える過程を大切にしたい内容にしてはどうか」との一考を投じた。学生は夏休み期間中に6日間の活動を行い最終報告会は12月9日に行われる。（江端）

■名古屋短期大学インターンシップ受入報告

7～8月、現代教養学科1年生2人を受け入れた。ボランティア論の講義がきっかけでNPOに興味をもち、10日間の日程で事務局や講座運営補佐、会員団体4法人での現場実習等を行った。研修を通してNPOの具体的な業務を知り、大学での学びに結びつけることができた。また、様々な人々との出会いによって、コミュニケーションをとる楽しさや苦勞を学んだ。（関）

以下、学生の感想(一部抜粋)

○現場実習で利用者から「ありがとう」と言ってもらえて、嬉しかった。将来、祖父母が介護が必要になった時、どんなふうに手伝えればよいか、分かった。

○今後の進路について考えたり、現場実習での経験



説明会の受付対応する学生

が、人と関わる際に活かせると思った。

■金城大学ゼミ合宿

8月23日から25日、金城学院大学コミュニティ福祉学科の朝倉ゼミ3年生による夏合宿が知多半島で行われた。

地域を学ぶ目的で、1日目は居場所運営を行うNPOで体験学習、2日目は常滑市大野町を散策しながら地域の方に話を伺い、3日目は場を創る体験として手づくりカフェAda-codaでイベントの企画運営を行った。イベントには子どもも含め28人が参加、知多産の野菜を使ったランチを提供し、レクリエーションを通して参加者との交流を深めた。

学生は3日間を通し「地域の人と交流することで課題を知り、体験することで地域の良さを感じた」「みんなで協力し合ってやりとげられた」と振り返った。朝倉教授は「色々な人と関わることで人生は豊かになる。学生は今回の合宿を通して、人と人の関わりが大切なことを学べた」と話した。（竹内ゆ）

■星槎中学校レストラン

8月3日、4日手づくりカフェAda-codaにて、星槎名古屋中学校料理部の生徒による「中学生レストラン」が開店した。安部雅昭校長の「直接お客様の生の声を聞き、生徒の成長につなげたい」という思いから始まり3回目となる今年は、1～3年生の生徒計13人が前日の仕込み、調理から料理の配膳、食器洗いを役割分担した。

生徒が考えたメニューの初日は豆腐ハンバーグ、2日目は照り焼きチキンがメインのランチ。お客様からは接客が丁寧、どの料理も美味しいとの好評を頂き、計60食を完売した。



新調した調理服で配膳する生徒ら

生徒は、仕込みの大変さに加え、苦手意識のため緊張する接客を乗り越え、やりがいと楽しさを見出した。また「お客様の『美味しかった』という声が嬉しかった」「今回の経験を今後の料理部の活動に活かしたい」と話した。安部校長も「来年もこの活動を続けていきたい」と笑顔で語った。(安藤)

■東海市センター登録団現場見学

8月24日「地域資源の活用と地域連携」をテーマに、東海市主催の市民活動センター登録団を対象としたNPO現場見学を開催、半田市内の2地区の取り組みを参考にしようと18人が参加した。



「若い人が育つ姿が魅力的」と参加者

亀崎地区の伝統文化を守り多世代を巻き込む(N)亀崎まちおこしの会、ろじうら実行委員会は、参画するという意識を大切にしていまちへの愛着を育んでいる。

続いて新美南吉記念館へ移り、秋の風物詩となった矢勝川の彼岸花、その群生誕生の経緯と会の発展とともに対岸の阿久比町にも派生した植栽活動について伺った。また、平成25年「南吉生誕100年」を機に(N)ごんのふるさとネットワークを設立、童話「ごんぎつね」の情景を後世に残したいという思いが、阿久比町と半田市の企業・NPO・市民団体・コミュニティが繋がった。

「一人から始めた活動が、となり町を動かした」「NPOは地域活動者をつなぐパイプ役である」と評価し、市町を超えての連携は、NPOだからこそとの感想があった。

市民活動センターへ戻り、日本福祉大学地域連携コーディネーターが「Cラボ」の活動について事例を紹介した。最後に見学のまとめとして(N)まち・ネット・みんなの広場 加藤龍子理事長は「2年後に市政50周年を迎える東海市の宝を見直し、次世代へつなげたい。地域に関心を持ち、理解し、積極的に働きかけよう。地域を創造する力を発揮しよう」と参加者に呼びかけた。(安藤)

■市民活動センター10周年記念事業

創立10周年を迎え、10月28、29日「つながるはぐくむ ～知多市民活動センター10周年記念事業～」が開催される。事業の企画・実施にあたり、センター登録団体の有志18団体と市民協働課で実行委員会を結成し「市民活動やセンターの周知」を目的に掲げ、当日のイベントに多くの人に足を運んでもらえるよう協議を進めている。

センター登録50団体が活動紹介、物販、体験型講座などを通じて活動の魅力を発信する。また、実行委員会主催のチャリティーオークションを実施、その収益を今後の市民活動支援に活用するという取り組みも実施する予定。(久保)

ふくし職員1人インタビュー

東海市社会福祉協議会 地域福祉課統括主任
宝達 真志さん

愛知県東海市で生まれ育つ。県外の大学で社会福祉を学び、卒業後、県内の障害者支援施設にて、支援員と相談員に従事。2006年、関心のあったまちづくりやその仕組みづくりを行う東海市社協へ入職。



東海市は人口約11万5千人、112の町内会・自治会が存在する。地域の3～5年先を見通した計画を立て、地域住民でできるお互いさまの仕組みづくりを行い、必要に応じ行政の仕組みとして提案している。行政が進めている地域支え合い活動の原型となる見守り活動や居場所づくりを行ってきた。現在は、障害や高齢といった限った人ではなく、「みんなが幸せに生活する。」ことを広める福祉教育、災害時の対応として、日ごろからの関係作りの大切さを伝える防災啓発活動、0～100歳までの地域包括ケアを目指し、第1層の生活支援コーディネーター事業も行っている。

地域住民に支えられ、現場とのつながりがある。何かを始めることができると痛感している。「やっても社協、やらなくても社協」という言葉がある。社協はやろうと思えば、いくらでもできる。人を知り、地域を知り、先を見て事業を進める「やっても社協」でありたいという思いで日々業務を行っている。(関)

サポちた インフォメーション

会員さんなどから集まる情報をお知らせします。お気軽に情報をお寄せ下さい。

■介護職員初任者研修講座募集

〈受講期間〉10月3日(日)～12月5日(火)全15日間
〈募集期間〉9月4日(月)～9月29日(金)
〈場所〉ネットワーク大府 研修室
〈受講料〉50,000円(税別) テキスト代 4,320円
〈募集人数〉20人
10月～11月開催の行動援護従業者養成研修講座の申込みも受付中。
〈申込・問合せ〉(N)ネットワーク大府(担当:豊田)
☎0562-44-3735

■療育セラピスト養成講座【基礎編】

発達障がい児の支援者向け(未経験可)のABAの個別療育に特化した養成講座。
〈日時〉10月5日、19日、11月2日、16日、30日
(隔週木曜日)19:00～21:00
〈場所〉武豊町中央公民館(予定)
〈受講料〉35,000円
〈申込締切〉9月30日まで
〈申込問合せ〉(N)Paka Paka 申込はメールで①氏名②所属③連絡先をoffice@paka-paka.netまで

■スタッフ募集(正規・パート・登録)

①障害者部門スタッフ
ヘルパー、放課後等デイサービス、相談支援事業、グループホーム世話人・支援員
②高齢者部門スタッフ ヘルパー
③喫茶ゆめひろば(調理スタッフ)
料理の好きな方大歓迎！
〈資格〉①②ヘルパー1・2級、初任者、介護福祉士、保育士、教員、社会福祉士 他
①の世話人・支援員と③は資格不問
〈場所〉知多郡武豊町内各所
〈問合せ〉(N)ゆめひろば 担当(出口・小藤)
☎0569-72-2963

■ボランティア・アルバイト募集

〈ボランティア〉
①運動クラブふいつと:運動を通じての障がいのある子どもとのふれあい ②利用者の食事作り
〈アルバイト〉
③日中一時支援事業:障がいのある子どもとのふれあい
④ホームヘルパー:障がいのある方の外出支援等
〈資格〉①～③資格不問
④ヘルパー2級・初任者研修修了以上
〈場所〉①知多市民体育館 ②、③らいふ
④利用者宅等
〈日時〉①土日10:00～12:00 ②第1土曜日9:20～12:00 ③平日15:30～18:00、土日10:30～16:00 ④土日
〈問合せ〉知多地域障害者生活支援センターらいふ
(担当:廣瀬、竹下、佐藤)☎0562-34-6293
Email:lfe-neco@aikouen.jp

■手づくりカフェ Ada-coda シェフ募集

毎日シェフが変わる、ワンデイシェフ方式を取り入れたカフェです。男女を問わず、色んな世代の方々がシェフとして活躍中！仲間やご夫婦などで料理を楽しみながらグループで活躍するシェフも多数。Ada-codaで自分色のお店を作ってみませんか？お店には、コーディネーターがサポートしますので、特別な資格はいりません。お料理好きの方、ぜひお気軽にお問合せ下さい。
〈場所〉知多市市民活動センター1階
〈営業時間〉11:30～14:00(ランチタイム)
〈申込問合せ〉地域福祉サポートちた(担当:安藤、竹内ゆ)
☎0562-33-1631



【活躍中のシェフの声】

元職場の仲間で活動しています。お客様との交流を通して人とのつながりの大切さを実感しています！

NPO現場見学研修の中止のお知らせ

11月14日(火)開催予定のNPO現場見学は諸事情により中止させていただくことになりました。大変ご迷惑をおかけいたします。深くお詫び申し上げます。何卒ご容赦を賜りますようお願い致します。尚、個別の研修等は引き続き対応させていただきますので、ご相談ください。(担当:安藤)



特定非営利活動法人

地域福祉サポートちた

478-0047 知多市緑町12-1
知多市市民活動センター1階

Tel 0562 (33) 1631
Fax 0562 (33) 1743